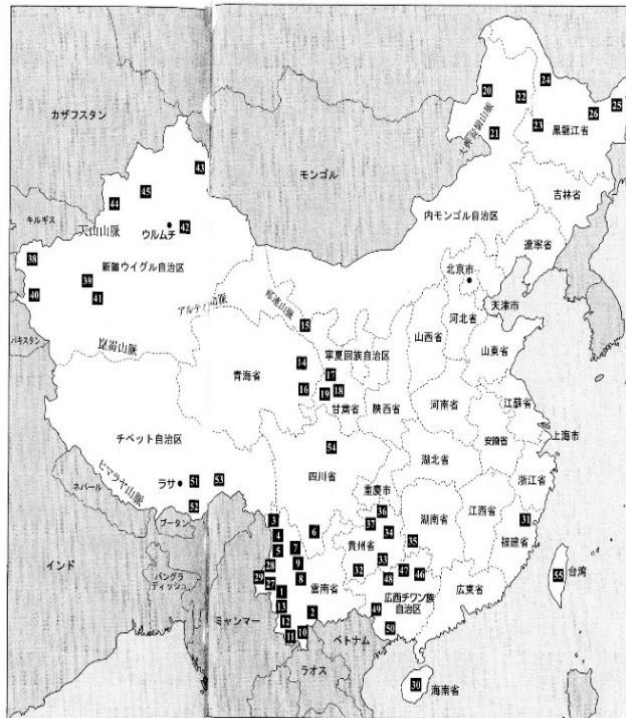


「中国少数民族モソ人の山神信仰」

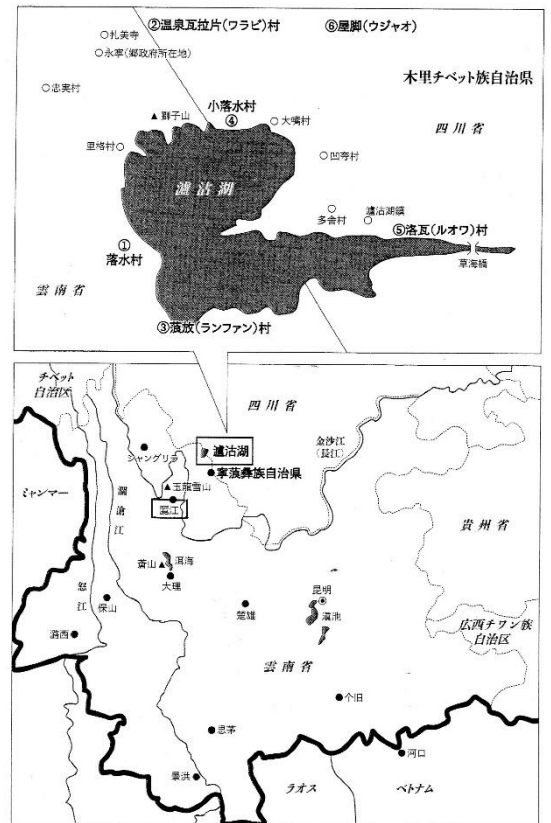
1. 中国の少数民族分布

中国55の少数民族・分布地図

- | | |
|-----------|----------|
| 1 ラブ族 | 26 ジンポー族 |
| 2 ジーヌオ族 | 27 リー族 |
| 3 トーロン族 | 28 シェ族 |
| 4 リス族 | 29 ブイ族 |
| 5 ヌー族 | 30 シュイ族 |
| 6 イー族 | 31 ミャオ族 |
| 7 ナシ族 | 32 トン族 |
| 8 パー族 | 33 トウチャ族 |
| 9 ゴミ族 | 34 コーワオ族 |
| 10 タイ族 | 35 キルギス族 |
| 11 ブーラン族 | 36 ウイグル族 |
| 12 ハニ族 | 37 タジク族 |
| 13 リ族 | 38 ウズベク族 |
| 14 トウ族 | 39 タター族 |
| 15 ヌイグー族 | 40 カザフ族 |
| 16 サラ族 | 41 シボ族 |
| 17 バオアン族 | 42 ロシア族 |
| 18 回族 | 43 ヤオ族 |
| 19 トンシヤン族 | 44 モーワオ族 |
| 20 モンゴル族 | 45 マオナン族 |
| 21 オウク族 | 46 チワン族 |
| 22 ダフル族 | 47 ジン族 |
| 23 満州族 | 48 チベット族 |
| 24 オロチョン族 | 49 メンバ族 |
| 25 ホジェン族 | 50 ローバ族 |
| 26 朝鮮族 | 51 チャン族 |
| 27 トアン族 | 52 高山族 |
| 28 アチャン族 | |



調査地地図



左地図出典：崔淑芬『中国少数民族の文化と教育』中国書店、2012年

右地図出典：拙著『つながりの民族誌—中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索』春風社、2016年、p46

中国の民族構成は、55の少数民族（人口約8%）と漢族（人口の約92%）である。人口最多はチワン（壮）族の1600万人、最少はロッパ（珞巴）族で、多様な文化がみられる。

2. ナシ（納西）族とモソ（摩梭）人の生活

・ナシ（納西）族

ナシ族は人口約30万人で、「ナシ語」を使用する。「ナシ」とはナシ語で「黒い人」という意味である。ナシ族が信仰するトンバ（東巴）教（祖先崇拝、自然崇拝、病気治癒などを含む）の経典は、トンバ文字という文字で書かれており、トンバ教の司祭だけが使いこなすことができる。

ナシ族の居住地である麗江市は、雲南省西北部に位置する山間部の盆地（標高約2400m）に発展した街で、チベットと雲南南部を結ぶ交易ルートの要衝地として栄えた。市街地からは、ナシ族に聖なる山とあがめられる「玉龍雪山」を望むことができる。1997年、旧市街（古城区）が民族文化が息づく街として、世界遺産に認定され、観光化が進んだ。市街地以外の大部分の地域では、農業を中心に生活が営まれ、水稻、ジャガイモ、ソバ、トウモロコシ、豆類などが栽培されている。

婚姻制度は一夫一妻であり、土地、家畜、家屋などの財産は、基本的に男性によって管理・相続される。1960年代まで「玉龍雪山」の中腹で情死する者がみられ、情死をおこなった男女には、トンバ教の経典『ルバルザ』とよばれる経典が唱えられ、儀式が行われていた。彼らの霊は玉龍雪山の奥に進んだ3つ目の草地にある楽園に入ると考えられており、情死の際には愛を語る時に使われる「口琴」を持って行き、「口琴」の振動に言葉をのせて相手に伝えた。

・モソ（摩梭）人

モソ人はナシ族の支系である。人口約4万人で、モソ語を使用する。モソ人の主な居住区は、四川省と雲南省の境にある「瀘沽湖」という高原湖の周辺である（海拔2700m）。主な産業は農業であるが、瀘沽湖周辺では観光業が盛んである。チベット仏教とダバ教（祖先崇拜、自然崇拜、病気治癒など）を信仰している。

モソ人はこれまで母系家庭に暮らし、妻問婚が行ってきたが、社会変化に伴う人の移動や観光化によって、母系家庭や妻問婚の習慣は急速に消滅している。

3. モソ（摩梭）人の山神

モソ人居住地はおもに山岳地帯であり、彼らの生活は山と切り離すことができない。彼らは万物に神が宿ると考えているが、もっとも大切にされているのが山神への信仰である。

例えばヘディガム（黒底格姆女神山）に隣接する盆地に位置する雲南省永寧郷温泉村では、数多くの山神のなかでも3つの大きな山神があるという。一番目に大きいのは地元で一番高い山の「ヘディガム（黒底格姆山）」、二番目が四川省にある「ゴンガアルセゴム（貢嘎山）」、三番目が「ジャンルツナ（場所不明）」であるといい、読経をするとき、つねにこの3つの山神の名を読み上げる。地域によって山神の名は異なるが、神々のなかでもっとも重要視されるのが山神であることは、モソ人居住区内のどの地域でも共通している。

山神を祭るのに特に決められた時間はない。豊作、子どもの誕生、大きな家畜の誕生を祝うときにおこなわれる。祭祀の内容は一般的に口承ではじまり、今日は縁起がいい日だ、多くの物を準備したと賛美し、山の神に降りてきてもらうように念じる。口調は念じるような調子から歌うような調子に変わっていき、低い声から高く響く声へと変わっていく。一節念じるとき、ダバの近くにいる楽隊が巻き貝、鈴、ドラ、太鼓を鳴らす。

モソ人居住地で最も盛大に山神を祭るのが、旧暦7月25日におこなわれる「転山節」である。この祭は春節に次いで盛大で、人々は盛装して家族または親族単位で獅子山に登り、ガム（格姆）女神を祭る場所で焼香して、ダバとラマに経を読んでもらう。それから山で食事をし、歌ったり踊ったりして祭りをおこなってきたという。

現在は、早朝にガム女神を祭る場所で焼香した後、「摩梭文化保存会」という伝統文化に興味をもつモソ人のグループによって各村やグループごとにダンスや歌を競うプログラムが用意されている。

ガム（格姆）女神の神話 一神の世界と人間界一のつながり

昔、者波（ジャボ）村に美しい娘がいました。彼女は生まれてから7日で話ができるようになり、彼女の話は歌のように美しく、人々の感動を誘いました。彼女は生まれてから3ヶ月経つと、天上の神たちと競うほど聡明になり、地上のことは何でも分かるようになりました。彼女は花のように美しく育ち、すべての人が彼女を見にきました。18歳になった頃、若い男たちの求婚の歌が水のように流れ、贈り物が山のように積まれましたが、彼女はずっと口を開かず、慌てた男たちは毎晩彼女の家に行ったのです。その美しい娘はガムといいます。

ある日、天上の男神が地上で働くガムを見初め、突風で天上にまで吹きあげてしまいました。ガムは空中で泣き叫びましたが、男神はしっかりと彼女をつかみ放しませんでした。永寧盆地のすべての人がその様子を見て叫び、その声は雷のように鳴り響きました。男神は人々の叫び声を聞いて驚き、慌てて手を放してしまいました。するとガムは獅子山の頂上に落ち、それから再び村に戻ってくることはなかったのです。彼女は白馬に乗り、左手には珍珠木を、右手には短い笛をもち、永遠に山の頂上を回り続け、永寧盆地のすべての人と家畜の平安を守りました。その後、人々は彼女の守護に感謝して、毎年7月25日に山を祭り、歌や踊りで彼女を祭るようになりました。

ガム女神にはアチュ（妻問婚の相手）がいました。長期間つき合っているアチュは「瓦如トラ（ワルブラ）」男神、短期間つき合っているアチュは「則枝（ゼジ）」男神と「高沙（ガシヤ）」男神でした。ある日、ワルブラ男神が旅に出たとき、ゼジ男神が女神を訪ねてきました。しかし、ワルブラ男神も旅に疲れて急遽戻ってきてしまいます。ワルブラ男神はガム女神とゼジ男神が逢瀬を楽しんでいるのを目にした瞬間、腰に下げた長刀を引き抜き、ゼジ男神の身体の一部を切り落としてしまいました。そういうわけで、ゼジ山は一角が欠けているのです。

歌1 ガム女神への賛美

- ・美しいガム女神、彼女は何を敷物にしている？ ・彼女は平坦な永寧盆地を敷物にしている。
- ・美しいガム女神、あなたは何を鏡にしている？ ・彼女は碧い瀘沽湖の水を鏡にしている。
- ・美しいガム女神、彼女は何を頭巾にしている？ ・彼女は彩雲を頭巾にしている。
- ・美しいガム女神、彼女は何で数珠を作っている？ ・彼女は太陽や月や星で数珠を作っている。
- ・美しいガム女神、彼女は何でまつげにしているの？ ・彼女は山の間岩でまつげを作っている。
- ・天上の星はきれいだと言うけれど、ガム女神ほどきれいな人はいない。